

岡山醫學會彙報

岡山醫學會通常會

同會は本月二十三日午後三時より岡山醫學專門學校に於て開會、筒井會長開會を報じ直ちに左の演説に移る

第一席 小兒疾患ト自然療法

志摩 次郎君

演者は八年の男兒が急性胃腸疾患の恢復期に於て長く粥面、野菜、「ソップ」等を以て養はれ、爲に饑飢に陥り、適當の食餌に依り全治せし一例を擧げ、抵抗薄弱にして且輕微の營養不給も重篤なる障礙を惹起する小兒期に於ては健康時は勿論、疾病の極期又は恢復期に於てもよく小兒の生理的、解剖的特徴に鑑み、自然の要求を考察し、常に之に適する治療法、營養法を執り、なるべく自然的治癒に順應すべきを述べたり。(自抄)

第二席 寄生原蟲ノ染色法

田邊 操君

ロマノスキー染色法の一變法として染色上ギムザ氏液に依るものと殆ど同様にして而も難染性なる泥鱗の「トリバノプラスマ」の後鞭毛も容易に染色し且細菌の鞭毛も亦染色し得る方法を考案したるにより之に就きて報告せり。(自抄)

第三席 小兒赤痢ニ併發セル血尿ノ一例

梶谷 尙君

演者は六年七箇月の女子の赤痢恢復期に於て、何等の認むべき誘因なくして、突然に血尿を起せし例を述べ、最後に潜在性出血證明法に言及せり。(自抄)

第四席 小口氏病患者供覽

醫學博士 藤田秀太郎君

十二歳の男兒夜盲を訴ふ(兩親は生後滿一年頃已に夜盲あるを氣附くと)光神著しく減弱、視力視野普通然るに光少き所にては色視野のみ縮小し眼底は周邊部が特に灰白色を呈せるも四時間の暗適應後所謂水尾氏現象を現はす(患者時刻に遅れ只一部の人次に供覽したるのみ)、次に之が本態に付き假説を述べたり。(自抄)

第五席 一種ノ内視現象

醫學博士 藤田秀太郎君

眼瞼を暫く閉ちたる後二三秒間開瞼して強光を見又直ちに眼を塞ぐときは注視部に當り微細にして黄色をなし且光輝ある斑点中央より周邊に涉りて多數出現し又直ちに消失す其間僅に一瞬時のみ、光の強弱、開眼時の長短又は色硝子を透して光を見たる時の差異を述べ、之れヘス氏の見たるものと酷似するも亦多少異なる所あり、之が原因に就きては黄斑部に於ける圓錐體の收縮によりて起る所の剌戟現象ならんか。(自抄)

右終りて閉會したるは午後五時なり。

原著紹介

(雜誌順序不同)

七七〇

●實驗醫報(第六〇號)

横膈膜胸膜竇炎ニ就テ (山川章太郎)

膀胱結石ノ誤診例 (高橋明)

一時性腦性麻痺ヲ伴ヘル格魯布性肺炎ノ一例 (朝川尙)

多發性痛瘡患者ニ見タル口蓋膿瘍 (星騰吾)

中耳炎療法百話(其一)、周緣性穿孔ヲ有スル慢性化膿性中耳炎ノ療法) (千葉真一)

再ビ糖尿病ノ新療法ニ就テ (五斗欽吾)

食道狹窄症(臨牀講義) (入澤達吉)

日本住血吸蟲病(臨牀講義)(下) (長尾美知)

剖檢示説(三〇) (藤浪鑑)

糖尿病ノ治療法 (坂口康藏)

●最新醫學(第一輯第四號)

外科的結核ノ療法 (植村正淳)

流行性感胃ト「エンクトラルゴール」注射ニ就テ (櫻井芳雄)

後産期ニ於ケル主ナル異常及び其療法 (高岡朋三)

●治療新報(第二八二號)

小兒ニ於ケル便秘ト其療法 (太田孝之)

實際料理法(承前) (富士川游)

●治療新報(第二八三號)

黄疸及び其療法(四) (岡崎政治)

實際料理法(承前) (富士川游)